

Programmer / Automatic YES!

このコマンドはAutomatic YES! モードの設定に使われます。このモードではプログラムされたデバイスを取り除いて新しいデバイスをZIF ソケットに装着しますと最後の操作が自動的にリPEATされます。プログラムが自動的に新しいデバイスの装着を検知し、最後に行う操作をキー又は、ボタンを押すことなく実行します。ZIFへのデバイスの装着は画面に表示されます。リPEAT操作の実行はZIFからへの装着/取り外しを待っている間に<Esc> キーを押すことでキャンセルされます。

デバイスで操作が実行された後、プログラマー上のOK又は ERRORNのステータスLEDが操作結果により点灯します。そして、BUSY LEDが点滅します。プログラムがデバイスが取り除かれたことを検知しますと、ステータスLEDはオフになり、新しいデバイスが最後の操作を繰り返すためにプログラムが用意できていることを示すためにBUSY LEDが点滅します。プログラムがプログラマーのZIFソケットにある新しいデバイスの1つ又は、それ以上のピンを示した後、BUSY LEDは連続して点灯します。ここでプログラムは新しいデバイスの残りのピンが挿入されるための要求された時間を待ちます。もし、要求された時間(デバイス挿入完了時間)が過ぎたり、デバイスが正しく挿入されない場合、プログラムはこのステータスをERROR LEDで示します。新しいデバイスが正しく挿入された後、プログラムはBUSY以外のステータスLEDをオフにします。そして、新しいデバイスで操作を開始します。

このモードはAutomatic YES! モードにより有効、又は、無効にすることが出来ます。もし、新しいプログラマーがOptions / Find programmerで選択されると、このモードは無効になります。

Response time[応答時間]はZIFソケットへのチップ装着と選択されたデバイス操作の開始の間隔となります。もし、ZIFソケットでのチップの長いポジショニングが必要な場合は**elongated response time**[延長した応答時間]を選択して下さい。

Programming adapter used[使用されるプログラミング・アダプタ]は現在選択されたデバイスで使用されるアダプタ名を示します。

Pins of programmer's ZIF excluded from sensing[感知から除外されたプログラマーのZIFのピン] はAutomatic YES!によるテストで無視されたピンのリストです。ピンの無視の殆どの理由はそれらのピンへのコンデンサーの接続になります。

ボタン**Setting Automatic YES! parameters**[Automatic YES!パラメータのセッティング] は完全に接続されたピン(コンデンサーがあるピン)を検出し、それらのピンを前記の感知から除外されたピンのリストをセットするためのウィザードを実行します。デバイスの選択の後、除外されたピンのリストは選択されたデバイス・アダプタに対してデフォルトの除外されたピンを含んでいます。もし、ユーザーによりユニバーサル・プログラマーと又は、デバイス・アダプタコンバイパス・コンデンサーが追加された場合は、デフォルトパラメータを無視又は、優先するためとコンデンサーのあるその他のピンを検出するために**Automatic YES! parameters wizard**[パラメータ・ウィザード]を実行する必要があります。

Device removal hold off time[デバイス・リムーヴ保持時間] はZIFソケットからデバイスを取り除

いた時とソフトウェアが新しいデバイスの装着をソケットでチェックを開始する時の間の時間間隔です。この時間は秒間隔で1~120 (デフォルト値は2 秒)でなければいけません。

Device insertion complete time[デバイス装着完了時間] はプログラムが不正に挿入されたデバイスを検出しないうえに最初のピン(複数)が検知された後に全てのピンが適切に挿入されなければならぬ時間をセットすることが可能です。この時間は秒間隔で1~120 (デフォルト値は2 秒)でなければいけません。

Suspend on error[エラーで停止]はAutomatic YES!機能でエラーが起こった時に一時停止して操作の結果を見るか、又は、停止せずに続けるかを定義します。

このオプションは**Device / Select device**で新しいデバイスが選択された後はデフォルトにセットされます。

このセッティングはコマンド**Options / Save options**によりディスクに保存し、選択したデバイスをFile/Save projectでプロジェクト・ファイルにセーブすることが出来ます。

ノート: ある種の受動部品のあるソケット・アダプターを使用している時、例えば、供給電源をバイパスするためにコンデンサーを使用時、Automatic YES!機能はそれらのピンを知る必要があります。それはSetting Automatic YES! parameters[Automatic YES!パラメータのセッティング] ウィザードで行われます。これはAutomatic YES! 機能が正しく動作するために必要です。さもないとAutomatic YES!機能はピンが未だ接続されていると考え、ユーザーが新しいデバイスを挿入して新しいプログラミングを開始できません。